

止めよう 再処理！ 共同行動ニュース



2010年9月22日発行 再処理とめたい！首都圏市民のつどい
〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台3-2-11 総評会館内 原水爆禁止日
本国民会議気付 TEL：03-5289-8224

「延期は今回が最後」と決意表明したが、社員へのプレッシャーになるのでは？
原燃社長「これが最後の延期」

18回目の延期、これが最後？ 六ヶ所再処理工場の建設中止を！

1. 2010年10月に完成するの？

9月10日、日本原燃（株）は、青森県六ヶ所村に建設中の再処理工場の完成を、当初2010年10月であったものを2012年10月へと2年間延期すると発表しました。これで18回目の延期となりました（事業指定を受けた1992年以降で14回目の延期に当たる）。合わせて「財務基盤強化策」として4000億円もの巨額な資金の増資を10電力会社中心に要請することも発表しました（現在の資本金は2000億円）。

これまで行ってきたアクティブ試験（試運転）の最終段階で高レベル放射性廃棄物ガラス固化体製造施設でのトラブルで、2008年12月以降停止したまま長期中断に追い込まれていましたが、さらにその解決の見通しもたたないまま、泥縄的な今回の延長となりました。しかし、その延長で必ず問題が解決するとは限りません。むしろ、これまでの度重なる完成時期の延長は、六ヶ所再処理工場が欠陥工場であることを物語っています。そもそも「商業」施設と位置づけられている再処理工場は、その前提として完成された技術（？）が前提であり、「研究」施設ではないはず。だからこそ度重なるトラブルはその技術の未完成を端的に示しています。そのことは地域住民や県民にも多くの不安を与えるものです。

2. 破綻する核燃料サイクル路線

再処理工場の度重なる延長で、原子力政策の無計画性があらためて明らかになりました。このまま六ヶ所再処理工場が稼働しなければ、これまで進めてきた核燃料サイクル路線そのものが破綻することは明らかです。まさに六ヶ所再処理工場はその結節点に立っ

おり、今後の核燃料サイクル政策が一步も進まないどころか、政策の根本からの見直しを迫るものとなります。さらに工場の完成が遅れば遅れるほど、各地の原発サイトに溜まる使用済み核燃料を再処理工場に搬出できずに、サイトのプールに溜まり続け満杯になれば原発は停止せざるを得ません（使用済みMOX燃料はさらにどこへも持っていきません）。長期に渡る完成延期は、その危険性をさらに高め、原発が安定した電力供給を約束するものでなく、まさに他の電源に比べ不安定な要因を抱えるものであることがわかります。現在進めている全量再処理とする核燃料サイクル路線が早晩行き詰まるのは明らかです。原発停止が現実味を帯びつつあります。

延期により費用が益々膨らむことも明らかです。当初建設予算が7600億円だったものが、すでに約2兆2000億円にまで膨れあがりましたが、それでもいまだ完成していません。さらに日本原燃の有利子負債残高は、1兆円を超えており、経営への影響が懸念されています。それらの負債や今後の莫大な経費（今回の4000億円の増資も）の負担は、私たちの電力料金などから徴収され、結局は政策・経営などの失敗のツケを国民に回すものでしかありません。このまま六ヶ所再処理工場が完成しなければ、それら投入した資金が全てムダで終わってしまいます。電力会社などの民間を主体として進める六ヶ所再処理工場での失敗は、民間にとっても大きな打撃となりますが、かといって完成したからといって順調に稼働していく保証はありません。そのことは、東海村の再処理工場の実績【資料1】を見れば明らかです。ほとんどともに動いていないのが実情で、六ヶ所再処理工場が稼働したとし

でも、採算がとれるものなのかどうかはなはだ怪しいものです。六ヶ所が続く第二再処理工場の計画は、民間ではやらないとなると、では国が主体となって国策として責任を持って進めていくのか？ 国の財政状況がそれを許すのか？ あらためて冷静に見て行けば、プルトニウム利用路線は破綻を来すことが明らかです。

3. 問われる国産技術の信頼性

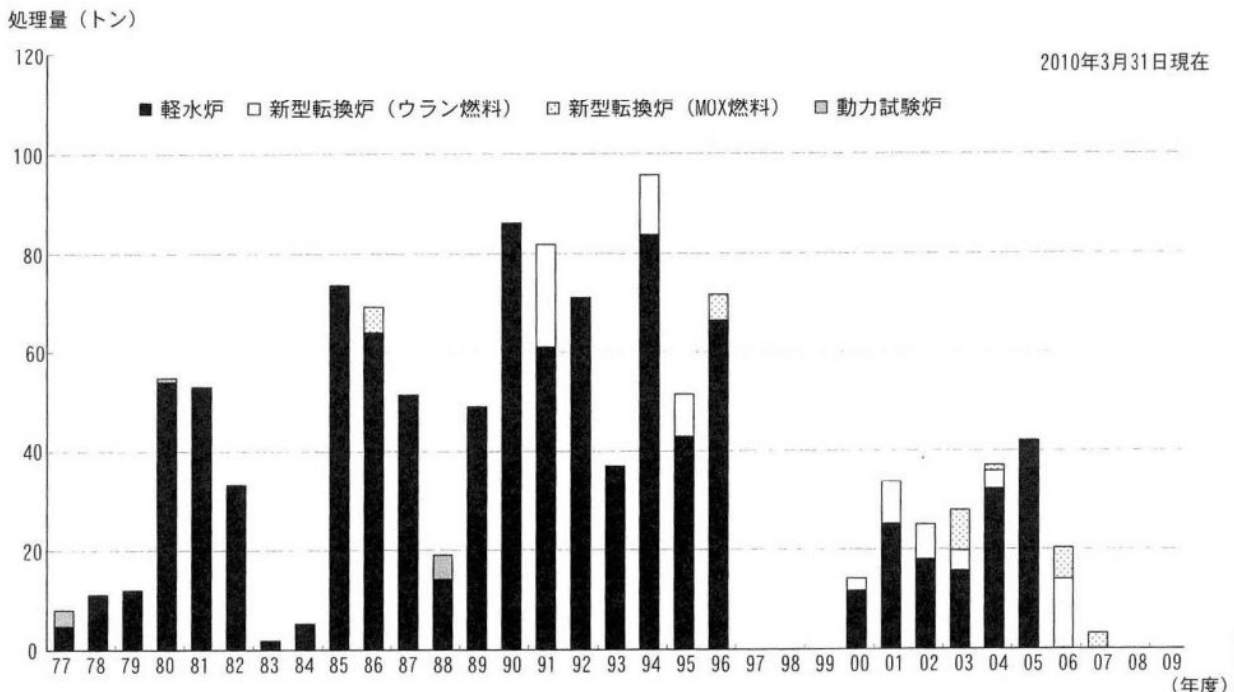
六ヶ所再処理工場ではフランスの技術を多く利用していますが、旧動燃（現核燃サイクル機構）が開発したガラス固化工程でトラブルが頻発しています。そのことは日本の国産技術の信頼性に関わる問題でもあります。日本独自の技術の信頼性が問われ、これから国際商戦に打って出ようとする日の丸原発の技術水準そのもの評価を落とすことにもなりかねません。すでに原子力の分野での国産技術の破綻は、原子力船開発や高速増殖炉開発で明らかになっています。特にもんじゅは、14年5ヵ月ぶりの今年の5月に再稼働したにもかかわらず、8月28日に3トンもの装置が炉心近くに落下し、現在復旧のめどもたっていません。次々起こる事故は、日本の原子力技術の未熟さを表しています。

4. 今回が最後？

日本原燃の川井吉彦社長は、三村申吾青森県知事に対して「延期は今回が最後」として「全身全霊」で取り組むことを約束しました。はたして本当に実現できるのでしょうか。技術的な裏付けのないまま進めてきたこれまでの事実を考えれば、2年後にまたしても「延期」は容易に想像できます。それにもかかわらず、安易な先延ばしを図る事業者に対しては、県民も国民も不信感を高めています。2年後に社長の首と引き替えにさらに「延期」では困ります。

5. プルトニウム利用路線の根本的見直しを

今大切なことはもう一度立ち止まって、核燃料サイクル政策の見直すことです。第二再処理工場の見直しも立たない中、全量再処理にこだわり、プルサーマルを進めるための核燃料サイクル政策を続けることは、まさにムリ・ムダ・キケンを拡大再生産し、莫大な費用を浪費することにほかなりません。このままいけば早晩核燃料サイクル政策が破綻することは明らかで、現行の原子力政策大綱の見直しと共に、あらためてプルトニウム利用路線からの撤退を検討すべきです。同時に六ヶ所再処理工場の建設中止がいま強く求められています。



【資料1】東海再処理工場の運転実績

私たち「再処理とめたい！ 市民のつどい」は、毎月第4水曜日に経済産業省別館前でのニュース配布と要請書の提出などの定例行動を2004年12月から続けてきました。



もう勘弁してよ～（泣）

ガンバリマース！



川井社長の一問一答／日本原燃

日本原燃の川井吉彦社長は10日、六ヶ所再処理工場完工の2年延期を三村申吾知事に報告後、青森市のアラスカで記者会見した。今回の工期延長を招いたトラブル続きのガラス固化体（高レベル放射性廃棄物）製造工程について川井社長は、茨城県東海村にあるガラス熔融炉の実規模試験施設で試験を重ねた結果、「それなりの自信を持つに至った。もう失敗は許されない」と述べた上で、「今回は最後の工程変更」と強調した。

会見での一問一答は次の通り。

－知事の前で「工程延期は今回は最後」と決意表明したが、社員へのプレッシャーになるのではないか。

「私が社長就任直後の昨年8月、工程を1年2カ月延長したが、さらに2年延期せざるを得なくなり、県民にも心配を掛けることになった。私自身へのプレッシャーという意味もある」

－見通しが甘かったのではないか。

「批判は甘んじて受けざるを得ない。前回は（トラブル処理など）不確定要素が多かったが、今回はかなり状況がはっきりした中で工程を積み上げた」

－2年延期しても再処理工場が完成しなかった場合は、どう責任を取るのか。

「**今回は最後**の工程変更だという覚悟で取り組んでいきたいーということに尽きる」

－2年延期により、使用済み核燃料のプールがあふれる原発も出てくるのではないか。

「使用済み核燃料の貯蔵に問題があるという話は各電力会社からは聞いていない」

－ガラス固化体を製造する上で、不溶解残さ（せん断した使用済み核燃料を硝酸で溶かした際に残る金属粒子、燃料被覆管の切りくずなど）が熔融炉の底にたまることが最大の障害ではないか。

「当初は不溶解残さ“主犯”説に傾いていた。しかし、実規模試験施設での試験の結果、炉内の温度管理さえしっかりやれば、この**問題はクリアできる**ことが分かってきた」

－六ヶ所再処理工場はフランスの工場の技術を導入して建設されたが、ガラス固化工程は、旧・動燃（現・日本原子力研究開発機構）が開発した国産技術。国産技術に固執し過ぎではないのか。

「ガラス固化体製造では、英仏とも相当苦労した。英仏は再処理工場本体とガラス固化工程を分けている。再処理本体は本体で運転し、高レベル放射性廃液はタンクにためて、研究開発してきた。その結果、フランスは非常にうまくいっている。英国は独自技術が駄目で、フランスから技術を買ひ、運転管理の部分も援助を受けた。『情けない』という指摘もあるが、われわれとしてはようやく、**それなりの自信を持つに至った**。もう失敗は許されない」

－4千億円増資し、何に使うのか。

「再処理工場完工後の製品貯蔵庫増設や廃棄物貯蔵庫建設など。MOX工場も建設が始まる。ウラン濃縮の新型遠心機の導入計画もある。これから設備投資が相当増える。5年間で1兆2600億円。半分以上の6700億円は債務償還で、純粋の工事資金は5900億円。過去5年に比べ約3千億円増える」

～イベント情報～

10/26・反原子力の日
集会とパレード

「とめろ！核燃⇔とめろ！上関」

●日時

10/23 (土)

開場 13:15 開始 13:30

●場所

東京・千駄ヶ谷区民会館 (JR原宿駅徒歩10分、地下鉄明治神宮前駅徒歩8分)

●講演

「今こそ断ち切ろう！ 破綻した核燃料サイクル」

山田清彦さん (核燃サイクル1万人訴訟原告団事務局長)

上関原発をとめよう！ (現地から) 資料代：800円

●主催

原発とめよう！東京ネットワーク (連絡先：ストップ・ザ・もんじゅ東京/TEL：03-5225-7213 (AIR内))

金になるなら、高レベル廃棄物でも引き受けるのかよ！

2010.9.9 東奥日報

高レベル最終処分問題

説明会開催要請へ

六ヶ所村議会、NUMOに

高レベル放射性廃棄物の国内での最終処分場が決まっていない問題で、六ヶ所村議会の新むつ小川原開発対策特別委員会(橋本勲委員長)は8日、処分場の選定を行う原子力発電環境整備機構(NUMO)に説明会の開催を要請することを決めた。核燃料サイクル施設を抱える村の議員として理解を深めるのが目的。村議会内には同村が最終処分場を引き受けるしかないのではとの声もあるが、取材に対し橋本委員長は説明会について「村内受け入れをうんぬんする場にはしない」と説明している。

村役場で同日開かれ、振興策などについて説明を受け、橋本委員長が説明会開催を提案、委員らが了承した。NUMOとの調整を進める。最終処分の方法や受け入れた自治体への地域

物の最終処分場選定をめぐっては、2007年に高知県東洋町が初めて調査に応募したが、町長選で反対派候補が当選し撤回。その後、候補地に名乗りを上げる自治体は現れない。

六ヶ所村には現在、海外から返還された高レベル放射性廃棄物(ガラス固化体)計13338本が貯蔵されて

今月もまたまた火災が発生！ 大丈夫??

六ヶ所再処理工場で今月も下記の事故が発生

9月21日、10時45分頃、再処理事業所使用済燃料輸送容器管理建屋(使用済燃料の輸送容器を点検保守する建屋)1の3階第2排気機械室(管理区域内)において、水銀灯安定器(高圧水銀灯の放電ガスである水銀の放電を安定的に制御するための装置)の収納箱の電線管からの発火及び発煙が発生しました。

これまで5月11日に再処理事業所 出入管理建屋のバイオアッセイ分析室)において分析装置の冷却水チューブに焦げ痕がついてことや、7月9日には「再処理工場ハル・エンドピース貯蔵建屋の電気盤室における電気盤での火災などが今年度(4月以降)に入っても続いてきています。大量の化学物質や放射性物質を扱う施設だからこそ、例え軽微であったにしても火災事故が起こること自体問題です。他のトラブルと合わせて日本原燃の安全管理体制が問われます。今月も安心・安全にほど遠い日本原燃でした。軽微な事故だから許されるものではありません。

おり、30、50年の貯蔵期間が過ぎれば電力各社が搬出する取り決めとなっている。三村申吾知事は、本県を最終処分地にしない旨の確約を国と結んでい

ているが、一部村議からは「議論にふたをす

るような県のやり方はおかしい」との批判も出ている。ただ、現時点を疑問視する議員もいる。

ず、「処分場の立地に関する意欲があると勘繰られる可能性がある。あえて騒ぎ立てる必要があるのか」と説明会開催を疑問視する議員もいる。